

# 考 動

川西市立東谷中学校  
学校便りNo.10 (30.10.12)  
発行者 校長 足立 仁志

## 保護者の皆様へ

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査結果について

4月に行われた全国学力・学習状況調査の結果が公表され、本校にも夏休み中に結果が届きました。3年生には、2学期初めに個人票を返却していますので、今後の学習にご活用ください。

ただし、この調査結果は学力の特定の一部であり「学力」の全てではありません。また、今回の調査は、3年生のみを対象にしたもので、全ての学年に当てはまるものではありません。しかし、学力や学習状況に関して東谷中学校の現状を知る指標にもなりますので、今回の調査結果を分析し、今後の学習指導等の改善に役立てていきたいと考えています。

### 学力調査に関して

#### <学力調査結果>

今年度は、例年行われている国語・数学に加え理科も調査が行われました。主として知識力を調査する国語A、数学A、主として活用力を調査する国語B、

数学B、理科（知識と活用の両方を含む）について、全国の平均正答率を100として、本校生の平均正答率と比較しています。（右上表）

本校生の平均正答率は、全教科で4ポイント以上全国平均を上回っています。特に数学は、非常に良好な状態にあることが分かります。また、国語・数学ともに知識力を問うA問題よりも、活用力を問うB問題の方が、平均正答率が高くなっています。この傾向は、昨年度と変わりはありませんが、今年度は特に数学Bの正答率が高くなっています。

#### <A問題B問題の比較について>

知識を問うA問題に対して、B問題では知識・技能を実生活のさまざまな場面で活用する力や課題解決のために必要な力が問われています。国語のB問題には、文章だけでなくグラフや資料を読み取る問題もあります。また、数学のB問題には、答えを求めるだけでなく、数学的な表現を用いて文章で説明する問題もあります。

教科	国語		数学		理科
	A	B	A	B	
東谷中	104	108	112	119	104
全国	100	100	100	100	100
差	+4	+8	+12	+19	+4

将来、生徒たちが社会に出て活躍するためには、「活用」する力を身につけておかなければなりません。B問題の正答率が高いことは、将来必要とされる力が確実に身につけていることでもあり、良い結果だと言えます。

A問題とB問題の正答率には、相関関係があることがわかっていますが、なぜ本校生のB問題に関する正答率が高いのかを考えてみました。

A問題は、わかる、わからないがはっきりしています。これに対しB問題は、簡単に問題を解くことはできませんが、粘り強く考えると何らかの解答にたどり着く可能性があります。本校生には、難しい問題でも途中であきらめたりせず、粘り強く課題解決に向けて取り組む生徒が多く、そのことが良い結果に結びついているのだと思います。

質問紙調査の「数学の問題で最後まで解答を書こうと努力しましたか」の質問に対して、約6割の生徒が、「全ての問題で最後まで書こうと努力した」と回答しており、それは全国平均と比較しても高い割合となっています。この粘り強く取り組む姿勢が、学習した内容を「活用」する力につながっているのだと考えています。

粘り強く学習に取り組む姿勢は、本校生の良いところとして、今後さらに伸ばしていきたいと思います。

### 質問紙調査に関して

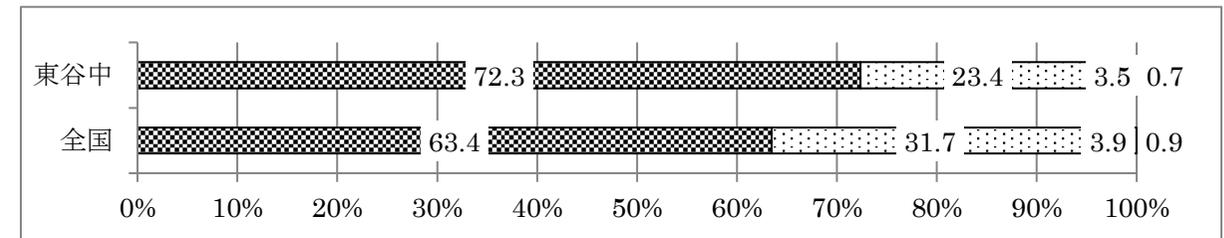
学力調査と同時に行われた質問紙調査の結果から、特徴的な回答結果について拾い上げてみました。

#### ※グラフの見方 左から

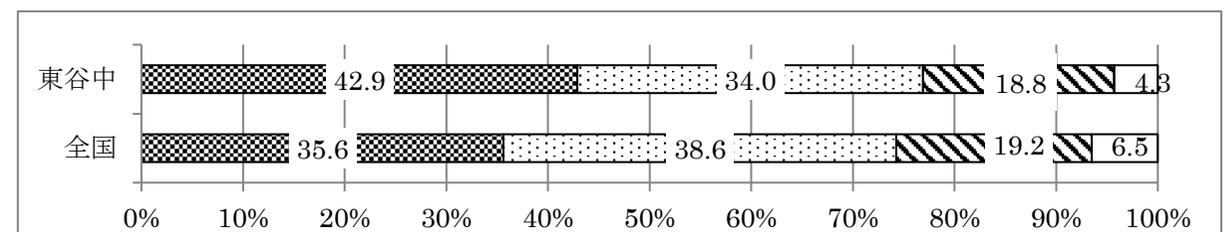
**当てはまる** **どちらかと言えば当てはまる** **どちらかと言えば当てはまらない** **当てはまらない**

#### <基本的生活習慣について>

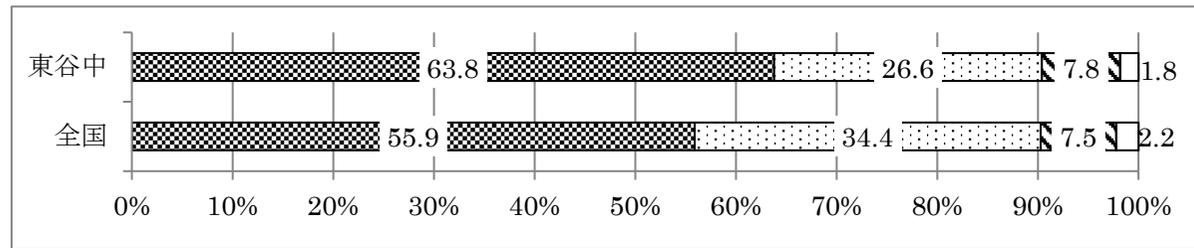
##### ■学校の規則を守っていますか



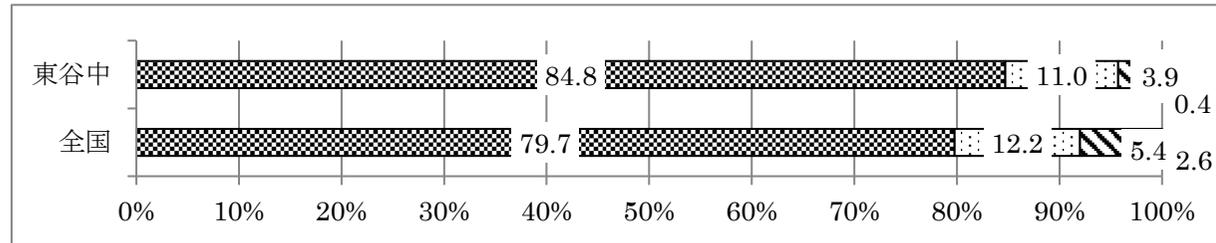
##### ■毎日同じくらいの時間に寝ていますか



## ■毎日同じくらいの時間に起きていますか寝ていますか



## ■朝食を毎日食べていますか

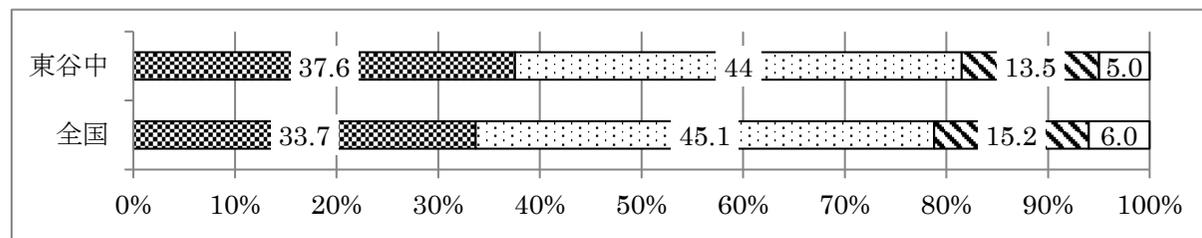


日々の食事や睡眠は、成長期にある生徒たちに大きな影響を与えていることは言うまでもありません。生活習慣が乱れると、体力や気力だけでなく学習意欲も大きく影響を受けてしまいます。基本的な生活習慣に関する本校生の回答は、いずれも全国平均を上回っており、非常に良好な状態だと言えます。学びに向かう基礎が作られています。

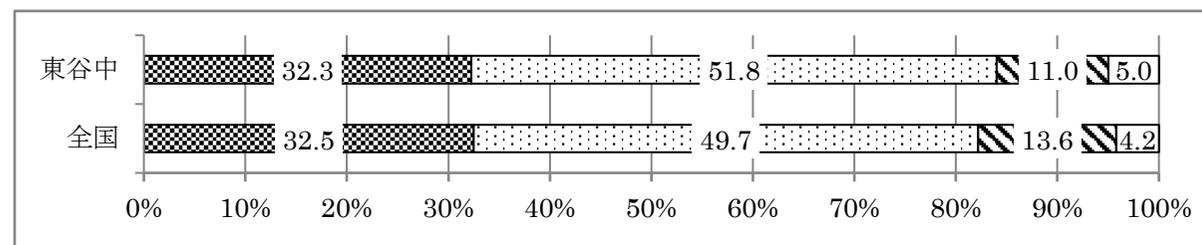
生活習慣づくりには、保護者の方の支援が欠かすことはできません。より良い生活習慣をつくり、学校へ送り出していただいていることに対し、感謝申し上げます。

## <自己肯定感について>

### ■自分には、よいところがあると思いますか



### ■先生はあなたの良いところを認めてくれますか



自己肯定感が高い子どもほど、物事に取り組む意欲が高い傾向にあります。「やればできる」という自信がなければ、高い学習意欲は持てません。自己肯定感を持っていない生徒は、全国平均よりも低いとはいえまだ多くいます。（将来の夢や目標を持っている生徒は約7割で全国平均とほぼ同じでした）

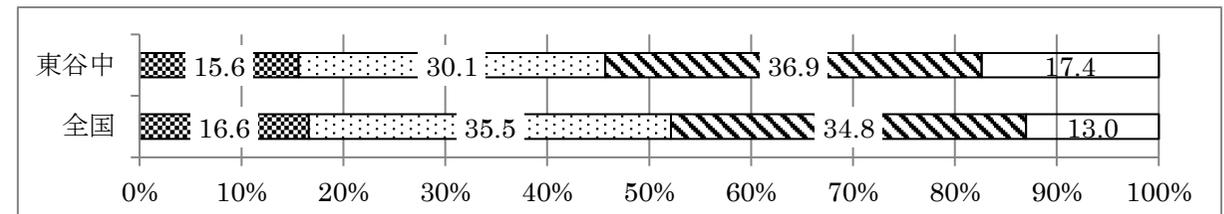
「先生は良いところを認めてくれているか」に対する回答は、左記のようになっています。教員は、生徒一人ひとりの小さな成功体験を見逃すことなく評価し、「自分もやればできる」という自信を持たせるよう指導していく必要があります。

## 課題について

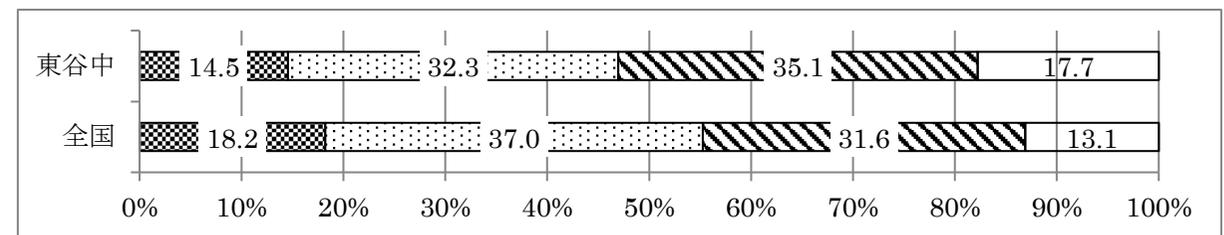
### <学習習慣について>

必ず家で宿題をする生徒の割合は71.3%で、全国平均（68.8%）を上回っています。また、学校以外で平日に勉強する時間が2時間以上の生徒の割合は44.0%で、全国平均（36.4%）を上回っています。しかし、「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」「家で、授業の予習・復習をしていますか」の質問に対して肯定的に回答した生徒は、どちらも全国平均を下回っています。学習に対して真面目に取り組むことができるのは本校生の良いところですが、授業以外の学習は塾や家庭教師に頼っているのかもしれませんが、そのこと自体が悪いというわけではありませんが、学習に対する主体性に欠けているようで多少気にかかります。

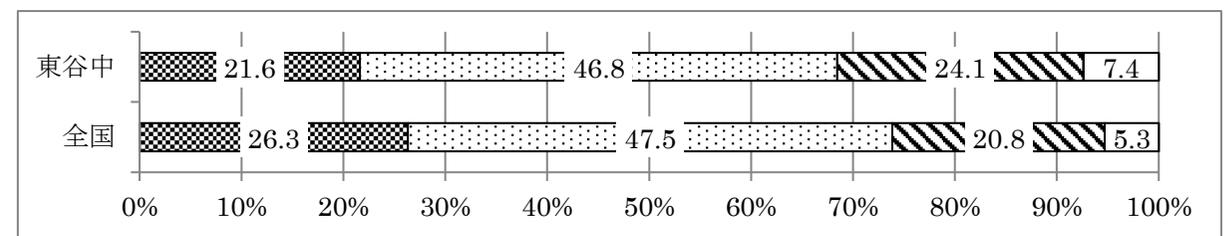
### ■家で、計画を立てて勉強していますか



### ■家で、学校の授業の予習・復習をしていますか



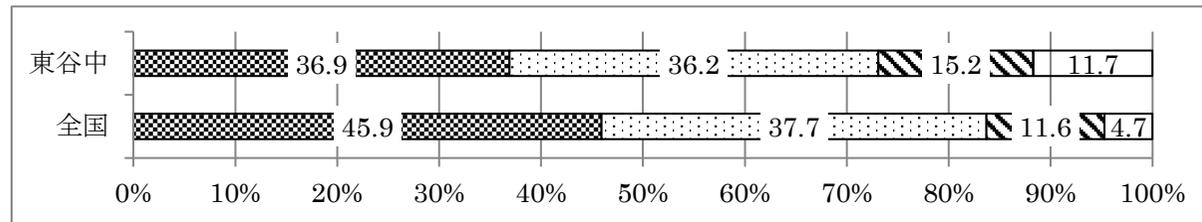
### ■授業では課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか



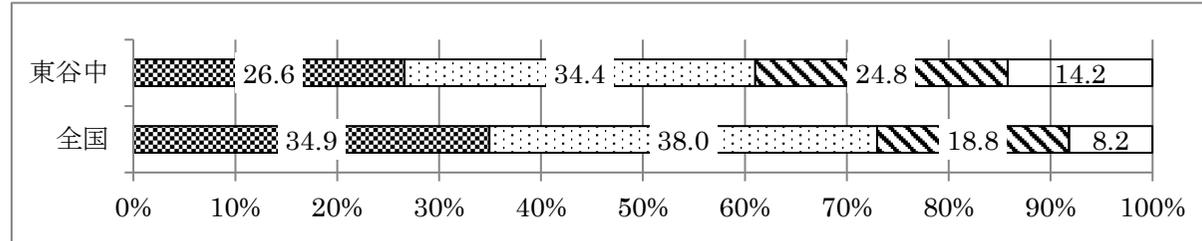
## <主体的な学習について>

与えられたことや義務付けられていることはするが、それ以外の学習には積極的ではない生徒が多いようです。もう一度、何のために学習するのかを再確認する必要があります。このことに関しては、他にも気になるデータがあります。

## ■数学の勉強は大切だと思いますか



## ■数学の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役立つと思いますか



勉強は大切だと思う生徒も、学習したことが将来役に立つと思う生徒も全国平均を大きく下回っています。同じ質問が理科にもありますが、結果は数学とほとんど変わりません。また、過去3年間の同じ質問に対する回答をみても同じような結果となっていました。川西市全体としても、似たような傾向にあるようです。多くの生徒たちにとって、学習によって得られたものが、自分の生活や将来と結びついていないことが気になります。そのことが原因で、主体的に学習に取り組めない生徒もいるのだと思います。

(昨年度も同じことを書きましたが)我々教員には、「なぜこの教科を学ぶ必要があるのか」を実生活と関連づけて指導する必要があります。そのことが学習意欲だけでなく、主体的に学習する姿勢にもつながると考えています。

## 今後の取組について

### <なぜ学習する必要があるのか>

小さい子どもは、大人に対して「どうして勉強しなければいけないの?」とよく質問します。この質問に対する答えは数えきれないほどたくさんありますが、誰もが納得する答えはありません。ちなみに、私は昨年度の学校だよりで、「自分で考え自分の判断で行動し、自分らしく生きたいから」だと答えました。

生徒たちにとって大切なことは、この問いに対する自分が納得できる「正解」を見つけることだと思います。ぜひ、ご家庭におかれましても、「なぜ勉強しなければならないのか」をお子さんと話し合う機会を設けていただきたいと思います。親の考えを聞くことも生徒たちにとっては、大切な学習になると思います。

### <主体的・対話的で深い学び>

与えられた課題に対して真面目に取り組めるのは、本校生徒の良いところです。それが今の本校生の学力を支えていると言えます。しかし、前述した通り、主体的な学びには課題が残ります。

今年度から、主体的に考え行動することを学校教育目標に盛り込んでいます。学校教育活動全般を通して、主体的に行動できる生徒の育成を目指して取り組んでいます。当然、授業など学習の場面においても主体性が発揮されるよう指導していく必要があります。

昨年度の結果分析でも、「アクティブ・ラーニング」の必要性を書かせていただきました。「アクティブ・ラーニング」とは、生徒の主体性を生かし、生徒同士の対話や教え合いを通してより深い学びにつなげる学習のことです。本校においても研修を行うなど、「アクティブ・ラーニング」に対する理解は進んでいます。しかし、実態としては、十分に行われているとは言えません。

先生から一方通行的に得られた解答は、生徒自身が考えたものではありません。対話や体験を伴った学習の方が、知識が定着しやすく思考力や判断力も養われます。積極的に授業に「アクティブ・ラーニング」を取り入れていけるよう引き続き研修を重ね、授業の充実に努めていかなければならないと考えています。

## 「音声ガイド機能付き電話機の導入について」

### ～ご理解とご協力をお願いいたします～

学校現場が抱える問題が多様化する中、教員の長時間勤務が社会的にも問題となっています。本校においても、長時間勤務は常態化しており、過労死ラインとされる月80時間を超える超過勤務時間が発生することも珍しくありません。そのため、教職員の業務軽減の一環として、川西市立中学校に音声ガイド機能付きの電話機(留守番電話)が導入されることになりました。夜間と土日・祝日は学校に電話が繋がらない状態となります。

留守番電話の導入は、教職員が時間的・精神的に落ち着いた環境のもとで教育活動を行い、生徒としっかりと向き合うことができるようにすることを目的としています。保護者の皆様には、ご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

なお、本校では、来週10月15日(月)より運用いたします。詳しくは、昨日配布いたしましたプリントをご覧ください。